

樂美術館事業報告要旨

令和 7 年度 期間： 2025年4月1日～2026年3月31日

I 美術館活動事業

1. 作品・資料公開活用に関して (詳細は別紙の通り)

(1) 展覧会活動

- 1) 新春展 様相の美 文様の美
- 2) 特別展 樂歴代
- 3) 特別展 繫 -歴史の狭間を支えた人々-
- 4) 新春展 春のことほぎ

(2) 手にふれる美術館活動

特別鑑賞茶会

手にふれる樂茶碗鑑賞会 ※休止中。

親子で見る展覧会 解説とワークショップ ※休止中。

(3) 他機関との協力活動

- 1) 他の美術館・博物館との協力事業
- 2) その他の機関・団体との協力事業

2. 保存・修復に関して

- 1) 館蔵作品の保管修理を行う。

3. 作品・資料収集に関して

- 1) 作品購入を行い、収蔵作品・資料の充実をはかる。予定作品は現在未定。

II 研究・資料図書公開事業

- 1) インターネット上での樂焼の解説、歴史概説の掲載閲覧を充実させる。
- 2) SNSを利用して、1)の利用拡大に努める。

III 学校・社会教育事業

(1) 小・中・高等学校への協力活動

- 1) 「親子でお茶一服」 ※休止中
- 2) 研修授業・修学旅行学習等への協力。

(2) 大学、各種学校のゼミ、研究会への協力活動

(3) 地域社会への文化事業協力、社会教育活動

IV 入館者数状況

I 美術館活動事業 1.作品・資料公開活用に関して (1)展覧会活動

館展示事業

展示事業 1 新春展 様相の美 文様の美 2025年4月1日（火）～4月20日（日）

※実際の会期は、2025年1月7日（火）～4月20日（日）

樂家の樂焼茶碗は、装飾を削ぎ落とされた静かなイメージがありますが、意外にも古くから文様を施し意匠を凝らしたものが多く残っております。作品に施される模様や絵にはいろいろな意味がこめられています。今回は、樂焼では珍しく、文様に焦点をあて展示致します。樂焼の器形の美しさ、釉薬の窯変による美しさだけでなく、文様に隠された意図や思いを紹介する。

展示事業 2 特別展 樂歴代 2025年4月26日（土）～8月3日（日）

2023年に開催した「開館45周年記念特別展 定本樂歴代」に準ずる展覧会。一昨年度の展覧会では、樂歴代の優品の茶碗を展示する機会が少なかった為、本年度は原点に立ち返り、樂歴代の優品の茶碗を中心に展開し、樂歴代の名品の花入、水指、香合なども展示します。

展示事業 3 特別展 繫 -歴史の狭間を支えた人々- 2025年8月9日（土）～12月21日（日）

長次郎が樂茶碗を興してから450年。樂家では「一子相伝」としてたった一人の子息が跡を継ぎ伝統を伝え、作陶の全工程を己一人でこなし、職人の分業を一切行いません。しかし、その長い歴史の中では単純に子息が跡を継いだ訳ではありません。子息を授からず養子をとる代があれば、病弱の兄を庇い、弟が代を継ぐこともありました。その背景には、父と子、母、娘、兄弟がそれぞれ歴史に関与し、その伝統を現代に繋げてきた努力の軌跡が作品を通して窺い知ることができます。そんな軌跡に焦点をあてた展覧会です。

展示事業 4 新春展 春のことほぎ 2026年1月9日（金）～3月31日（火）

※実際の会期は、2026年1月9日（金）～4月19日（日）

「ことほぎ」は「言祝ぎ」と書き、言葉を使って祝うことをいい、この「ことほぎ」は言葉だけでなく、形としても表現されます。展覧会では、樂歴代による「ことほぎ」をご紹介します。銘、形、模様、絵柄などさまざまに「ことほぎ」を込められています。是非、樂焼ならではの優しく柔らかい「ことほぎ」を紹介する。

I 美術館活動事業 1.作品資料公開活用に関して (2)手にふれる美術館活動

1. 手にふれる樂茶碗鑑賞会

当館所蔵の作品を手に触れて鑑賞する。当館所蔵作品は、茶碗をはじめとした茶の湯工芸品である。館付属の小間茶室で茶の湯道具組を再現、その後広間に移動し、作品を手にとって鑑賞。作品の解説、質疑応答を行う。

・開催期日

通常の手にふれる樂茶碗鑑賞会は休止中。

【特別開催】

・2025年4月15日／2025年9月16日 淡交カルチャー「樂鑑賞ツアー」

参加者14名 /参加者16名

バスで樂美術館と佐川美術館を巡る。茶室にて副館長・樂扶二子による手にふれる樂茶碗鑑賞会の後「新春展 様相の美 文様の美」と「特別展 繫 -歴史の狭間を支えた人々-」を鑑賞。

・2025年11月27日 Kirsty Anson氏ご一行 10名

館長・直入が手にふれる樂茶碗鑑賞会をし、黒窯制作ビデオ上映後、その後「特別展 繫 -歴史の狭間を支えた人々-」を鑑賞する

・2025年12月5日 ホテルオークラ京都「季節の旅」 14名

副館長・扶二子が手にふれる樂茶碗鑑賞会をし、黒窯制作ビデオ上映後、その後「特別展 繫 -歴史の狭間を支えた人々-」を鑑賞する

2. 特別鑑賞茶会

当館所蔵作品を用いての茶会形式による作品鑑賞会。館長樂直入による作品解説、質疑応答を行う。

「水月雪花之茶会」開催	2025年6月8日	69名
	2025年9月21日	60名
	2025年12月7日	73名
	2026年2月15日	75名

【特別開催】

2025年5月15日 ルイジ・デ・ヴェッキ氏夫妻（欧州金融界の銀行家） 3名

2025年12月8日 碧陶会 参加者20名

3. 親子でお茶一服

休止中

4. 親子で見る展覧会 解説とワークショップ

休止中

I 美術館活動事業 1.作品資料公開活用に関して (3) 他機関との協力活動

1.他の美術館・博物館への出品・講演など協力活動

- 1) 今出川通 日本画・茶の湯美術館連絡会（堂本印象美術館、茶道資料館、北村美術館、橋本関雪記念館、当館）と密接に協力活動を行う。
- 2) 佐川美術館の展示、美術館活動に協力する。
「樂直入展 伝統と挑戦」 2025年3月8日（土）～2025年9月28日（日）
※2025年9月29日～2026年6月末日まで施設の改修及びメンテナンス工事に伴い休館
- 3) 石川県七尾美術館の企画展に協力
「開館30周年記念・震災復興祈念 長谷川等伯展～帰ってきた国宝・松林図屏風～」
2025年9月20日（土）～10月16日（木）
- 4) 一般社団法人 表千家同門会 表千家北山会館の企画展に協力
「了々齋二百年忌記念 紀州徳川家との絆 –了々齋ゆかりの茶道具展–」
2025年10月4日（土）～12月14日（日）
- 5) 松屋銀座・婦人画報コラボ展に協力
「松屋銀座開店100周年・『婦人画報』創刊120周年記念 つなぎ、つたえる「人」と「家」 –特別展 京都十二の家–」 2025年12月27日（土）～2026年1月19日（月）

2.その他の機関・団体との協力活動

- ・宮内庁
秋篠宮妃紀子様ご来館
2025年5月11日
- ・表千家短期講習会
十六代樂吉左衛門がご挨拶、コンセプトを解説し、黒窯制作ビデオを上映後、
「新春展 春のことほぎ」を鑑賞。
2026年3月 5日 参加者37名／ 2026年3月 8日 参加者35名
- ・文化庁
第二十三代文化庁長官 都倉俊一氏ご夫妻ご来館
2026年2月20日
- ・外務省
外務省中東アフリカ局中東第二課
オマーン国立博物館訪問事務総長 Jamal Al Moosawi Hassan Hussain氏ご夫妻ご来館
2026年3月28日